

地域医療体制について(前編)

私たちの大切な地域医療を守るためには、地域医療体制について前編・後編に分けて特集していきます。前編では「かかりつけ医」、「病診連携」について、後編では三好市医師会 田岡医師会長、三好病院 余喜多院長のご協力のもと地域医療体制について語っていただきます。これを機会に今一度、三好市の地域医療について考えてみましょう。

お問い合わせ先 三好市保険医務課 (電話 72-7613)

■ かかりつけ医について

■ かかりつけ医とは

特定の疾患の専門医ではなく、日頃から患者の体質や病歴、健康状態を把握し、診療行為のほか健康管理上のアドバイスなどもしてくれる身近な医師のことです。常日頃から患者の状況を詳しく把握していることで、いざというとき適切に対応し、対応が困難な場合は専門医を紹介してくれます。病気になるらないための、予防医学という観点からも重要な役割を果たしています。

■ かかりつけ医を持ちましょう

大きい病院では待ち時間が長くなる場合もあるので、ご家族でかかりつけ医を決めておくことよつとした風邪などの病気の際には大変安心です。「かかりつけ医」は大病院の専門医でなくてもいいのです。患者のことをよく知っていて必要なとき専門医を紹介してくれる先生がいいので

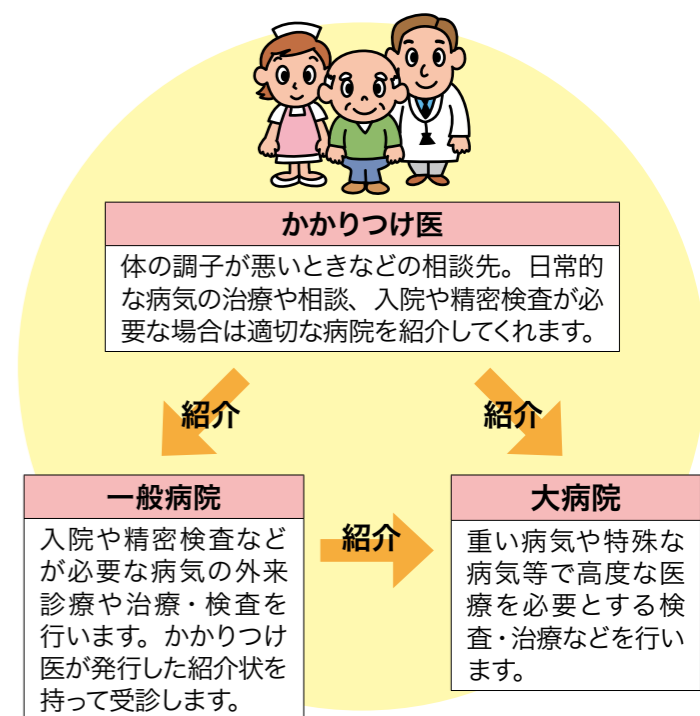
す。「かかりつけ医」を持つには、普段からのお付き合いが大切です。あなたの健康状態、事業など包み隠さず話し合える「かかりつけ医」を持つことが安心の第一歩です。

■ かかりつけ医のメリット

- ① 待ち時間が比較的短く、受診の手続きも簡単で、じっくり診察してくれる。
- ② 入院や検査などが必要な場合、適切な病院・診療科を指示、紹介してもらえる。
- ③ 家族の病状・病歴、健康状態を把握しているのも、もしもの時に素早い対応をしてくれる。
- ④ 食事面など、日常の健康管理のアドバイスをしてもらえる。



【かかりつけ医のしくみ】



■ かかりつけ医のしくみ

精密検査や専門的な治療が必要になった時、病院に行くことになりませんが、まず最初にかかりつけ医に相談してみよう。かかりつけ医が適切な病院を紹介してくれます。(※右図参照)

■ 病院へはかかりつけ医の紹介で

風邪などの日常的な病気の場合には近所のかかりつけ医を受診しましょう。高度な治療や精密検査が必要な場合には、かかりつけ医に適切な病院を紹介してもらいましょう。かかりつけ医の診療情報を持参して診療すると、スムーズに受診することができます。

【紹介状なしで大病院に行くこと】

「2時間待つて診療はたった数分」ということも。混雑を引き起こし、高度な治療を必要とする患者に影響を及ぼすことに。

◎ 高度な医療が専門のため医療費が割高になることも。

◎ 主治医が変わる場合がある。

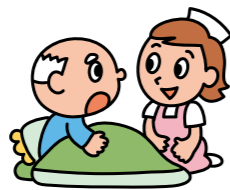
【何科にかかったらよいのかわからない…】

かかりつけ医がいれば、適切な診療科を指示してもらえます。病院に出かけたはいいが、自分は何科を受診していいのかわからないこともあるでしょう。自分の判断で診療科を選択してしまうと、長時間待たされたあげくに他の科にまわされるということにもなりかねません。そのようなことを避けるためにも、まずはかかりつけ医に相談して、症状にあった適切な診療科を紹介してもらいましょう。紹介状があればより安心です。

■ 病診連携について

■ 病診連携とは

地域医療などにおいて、核となる病院と地域内の診療所がおこなう連携のことです。必要に応じ、患者を診療所から専門医や医療設備の充実した核となる病院に紹介し、高



度な検査や治療を提供します。快方に向かった患者は元の診療所で診療を継続するしくみとなっており、このしくみを活用することにより、地域医療における効率的な医療提供が実施され、医療費の削減をはかることができます。

■ 介護保険とかかりつけ医

介護保険はみなさんが保険料を納め、40歳以上で介護が必要となったときにサービスが利用できるという制度です。かかりつけ医はいつも家族みんなの健康状態を把握していますので、介護が必要となったときはもちろん、病気の診察や日常生活のアドバイスなどをしてくれます。さらに、介護保険で利用できるサービスの中には医師の指示が必要なものもあります。

■ 病診連携を行うことでのメリット

- ① 初診時にかかる選定療養費が算定されない。
- ② 紹介状によって、紹介元の医療機関での検査結果や診療状況が伝わるので、診断や治療を迅速に進めることができる。
- ③ 検査やお薬の重複を避けることができる。

■ 選定療養費とは

初診時の選定療養費とは、「初期の治療は地域の医院・診療所などで、高度・専門医療は病院(200床以上)で行う」という医療機関の機能分担の推進を目的として、厚生労働省により制定された制度です。

【初診時に選定療養費の負担が必要ない人】

- ◎ 他院からの紹介状(診療情報提供書)を持っている人
- ◎ 緊急の場合(救急車での搬送など)
- ◎ 現在継続して治療中で、さらに他科で診療をうけようとする人
- ◎ 生活保護法の医療扶助の対

象となっている人

◎ 特定の疾患や障害などで、各種の公費負担を受給されている人

地域医療連携を推進することにより、地域医療の充実へと繋がっていきます。

三好市保険医務課 地域医療担当

「赤十字セミナー」が開催されました

9月20日、徳島県赤十字有功会西部支部設立10周年記念事業として、徳島赤十字病院の日浅芳一院長による記念講演「自分で分かる動脈硬化のみつけ方」ならびに東日本大震災における赤十字社徳島県支部の活動報告が「赤十字セミナー「いのちを守る」」と称して開催されました。

また、設立10周年を記念して徳島県赤十字有功会西部支部より三好市地区に災害用移動炊飯器が贈呈されました。今回いただいた災害用移動炊飯器は、三好市社会福祉協議会三野支所に設置されました。災害訓練などに多く活用いただきたいと思います。

ご利用申込については、三好市社会福祉協議会各支所までお問い合わせください。



お問い合わせ先
三好市社会福祉協議会本所
(電話 72-5715)

出会い★ときめき 三好のこの人 vol.3

このコーナーでは「文化でまちを元気にしよう」と活躍されている人を紹介していきます。
三好市文化交流推進課 (☎ 72-7633)



今月の三好のこの人
みよし 344演劇団 座長
ひらき しんじ さん
(本名 開 真司)



▲公演に向け熱心に練習を重ねる 344 演劇団員

夢は俳優になることだった
19歳の時からアルバイトをしながら俳優を目指していました。30歳で愛知から上京、厳しい立ち位置だったけど、どうしても夢を叶えたかったです。12年間でしたが、俳優として映画や舞台、TVなどへの出演といった俳優活動を経て、脚本、小説の執筆活動と、自分の夢に向かって駆け抜けていました。



三好市に 劇団をたちあげたい

3年前に父の故郷である三好市池田町に1ターンの移住してきました。子どもの頃里帰りした時と比べ、衰退し映画館もなくなつて久しいこのまちに「刺激を与えたい」と思っています。自分に何かできることはないかと考えた時、自分がこれまで積み上げてきた経験を生かして「劇団をたちあげたい」と思い立つたんです。

演劇の魅力とは

お茶の間で観るテレビと違って、演劇は生でやるので反応がすぐわかります。舞



お披露目公演に向けて
現在344演劇団は、小学一年生から六十代の方まで幅広い年齢層、個性豊かなメンバーで練習に励んでいます。結成から半年、11月25日にはいよいよお披露目公演を迎え

自分の特技を生かして地域に貢献 演劇の力でこのまちを元気にしたい

台に立つ者と客席が同じ空気の中で共に感動を分かち合える、これは大きな魅力です。

だからやめられない

公演前はとても緊張しますが、でも、幕が開いた途端、それはだんだんと心地いい緊張感に変わっていく、それがとても気持ちいい。何度やってもそう感じます。だから、やめられないのです。

ます。三好市を拠点に演劇でこのまちを元気にしたい。私の夢は、まだまだ続きます。

344演劇団
お披露目寸劇2本立て

【日時】
11月25日(日) 11時〜

【場所】
三好市中央公民館大ホール
(入場無料)

※劇団員も募集しています。

【お問い合わせ先】
344演劇団(ひらき)

☎090-9132-4205
「出会い★ときめき 三好のこの人」はケーブルテレビでも、タイアップ放送しています。ぜひご覧ください。

三好市人形浄瑠璃公演 せまる!

日時 11月17日(土) 13時開演
場所 池田総合体育館

※会場入口にて実行委員会地元協力店らによるバザー(手打ちそば、コーヒーなど販売)を予定しています。

私たちの大切な 地域医療を守るために

住民・医療者・行政が一体となり、「地域医療」を守っていくため、様々な情報を発信します



平成24年度 「三好市医師会市民公開講座」が 開催されました



今年度より三好市医師会と三好市が共催で三好市医師会市民公開講座を実施することとなりました。記念すべき第1回が10月13日(土)、三好市池田総合体育館において徳島大学呼吸器・膠原病内科教授の西岡安彦先生を講師にお招きし、「タバコと肺の病気」についての講演が開催されました。

この市民公開講座は、へき地で勤務する医師不足のため地域医療の崩壊が懸念されている昨今、三好市においてもこの問題は深刻な問題となっており、このような背景の中で、市民が健康で生活できるように、三好市医師会会長の田岡先生が中心となり準備に取りかかり実現することとなりました。



今後2年2回、県西部の疾病状況を鑑み、日ごろより健康管理に努めるよう専門の先生などをお招きし市民の皆さんに疾病予防の知識、あるいは救急医療体制ならびにへき地医療の啓発を実施します。市民の皆さんのご参加を心よりお待ちしております。次回は平成25年3月9日の予定です。

なお、今回の講座は11月10日から16日の間、午後8時からケーブルテレビで放送されます。ぜひご覧ください。

下に、当日参加者の方に配布させていただきましたパンフレットからいくつか抜粋して紹介します。



吸わない人も、知らないうちに「喫煙」しています

タバコを吸わない人が、他の人のタバコの煙を吸い込んでしまうことを「受動喫煙」と言います。他の人が吸っているタバコの先から出る煙(副流煙)には有害物質がいっぱいあります。吸わないあなたも健康も危険にさらされています。お子さんへのさまざまな影響も報告されています。

なかなかやめられない喫煙は、ニコチン依存症という病気です

最近では、一定の要件を満たすと禁煙治療が健康保険などで受けられるようになりました。禁煙の薬には「飲む」、「張る」、「かむ」の3種類があります。

身近にひそむCOPD (慢性閉塞性肺疾患) Q&A

- Q 「肺気腫」と言われたけれど、「COPD」とは違うんですか?
- A 「肺気腫」は「COPD」の一種です。
- Q ウォーキングのときにすぐに息切れしたのはCOPDのせい?
- A 息切れはまさに、タバコ肺、すなわちCOPDの症状です。
- Q COPDはよくなるの?
- A 今ではよい治療法があり、早くに治療を開始すれば、良好な状態を長く保つことができます。

まずはご自身でCOPDのチェック!

- 40歳以上でタバコを吸っている。または吸っていた。
- せき、たんがしつこく続くことがある。
- 階段を上るときなどに息苦しいことがある。
- ひとつでも当てはまるようでしたら、まずは一度、医師、薬剤師にご相談ください。